

落ち葉で川の栄養づくり

森と川のつながり学ぶ

ヤマメ放流と体験学習会

川と魚と人間の関わりを学ぶ体験講座「ふ」が25日、みどり市



落ち葉を集めて「川の栄養づくり」を体験する参加者ら(みどり市東町沢入の黒坂石川で)

東町沢入の黒坂石川
ガローテント村キャン
プ場沿いの渡良瀬川支
流・黒坂石川で開かれ

た。親子ら約50人が参加し、河川清掃とヤマメの放流を体験。森と川のつながりや、清流を守ることの大切さを学んだ。

水産業の多様な役割

を伝える水産庁の「水産多面的機能発揮対策支援事業」の一環として、桐生、みどり地区で2013年から続く体験講座。両毛漁業協同組合を母体とする団体「渡良瀬川水系魚ふれあい振興会」(会長 中島敦志・両毛漁協組合長)の主催。

今回は初めて、川岸の落ち葉や枝を拾う河川清掃を実施。腐葉土

となって川に栄養を与え、河川清掃とヤマメの放流を体験。森と川のつながりや、清流を守ることの大切さを学んだ。

ことを学んだ。

体長約10センチのヤマメの中成魚を放流した参加者は、ヤマメの塩焼きと豚汁を食べながら、元群馬県水産試験場長の新井正尚さんの講話を聞いたほか、ヤマメの新たな増殖方法として同漁協が取り組んでいる親魚放流の動画を鑑賞。親ヤマメが傷だらけになりながら産卵行動をとる水中の様子を食い入るように

見つけた。初参加の大友孟君(桐生西小5年)は「ヤマメはぬるぬるしていた。食べられないで大

きくなってねと願いながら放流した」と、清流を泳ぐ無数の魚影を見送った。中島会長は「渓流の食物連鎖は落

ち葉が主役。豊かな森が豊かな川と海をつくることを知ってもらえれば」と話す。

桐生タイムス

H27年10月28日(水) 掲載